

環境経営レポート

2024年度（2024年4月～2025年3月）

2025年5月25日

21世紀の緑を創る



総合造園・環境緑化設計施工

博多グリーン開発株式会社

目次

	頁
1. 組織の概要	1
2. 認証・登録対象範囲	1
3. 実施体制	2
4. 環境経営方針	3
5. 環境経営目標	
a) 2023年度～2025年度(中期3ヶ年)の目標	4
b) 環境目標とSDGsの関連性	5
6. 環境経営目標の実績並びに環境経営計画の取組結果並びに評価 (今後の取組方向)	
a) 環境経営目標設定の根拠(2015年度～2024年度の実績)	7
b) 2024年度の実績並びに評価	12
c) 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	16
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	18
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	20

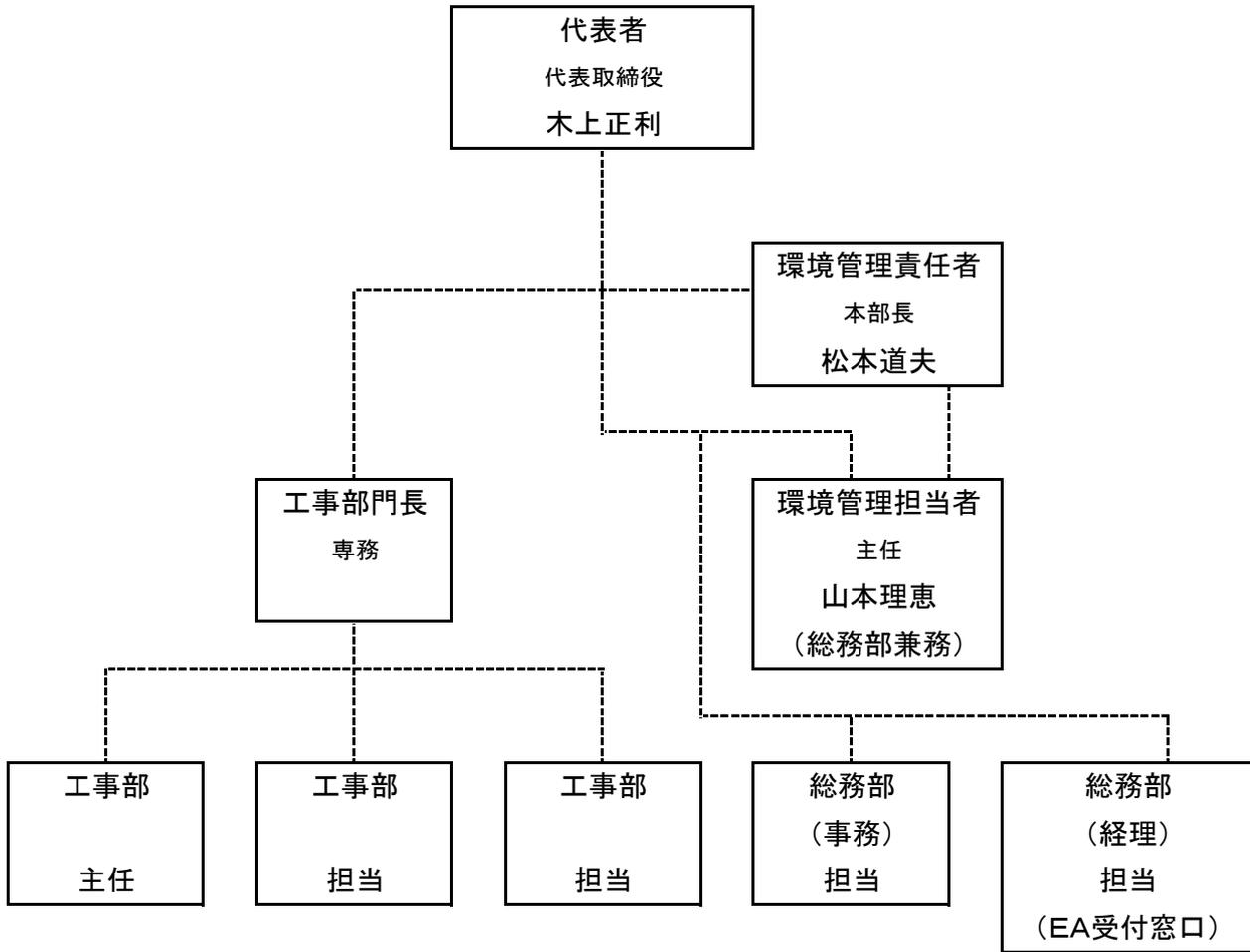
1. 組織の概要

(1) 事業者名 代表者	博多グリーン開発株式会社 代表取締役 木上正利
(2) 所在地	〒811-1353 福岡市南区柏原6-4-20 連絡先 TEL:092-566-8396 FAX:092-566-2907 E-mail:kinoue@ruby.ocn.ne.jp
(3) 環境管理責任者 担当者	本部長 松本道夫 主任 山本理恵
(4) 事業内容	造園工事を主体とした会社で、一般土木工事も施工しています。 上記工事に付随する とび・土工工事及び舗装工事も取り組んでいます。
(5) 事業の規模	売上高 25,253 (万円) ・・・2023年度実績による(2024年度は未確定) 従業員数 9 (名) 床面積 382 (m ²) ・・・本社社屋、倉庫(32m ²)を含む
(6) 事業年度	4月～翌年3月

2. 認証・登録対象範囲

(1) 事業者名 所在地	博多グリーン開発株式会社 〒811-1353 福岡市南区柏原6-4-20
(2) 対象	全組織、全活動、全従業員
(3) 事業活動	造園工事業、土木工事業、 とび・土工工事業、舗装工事業
(4) 資格者	1級造園施工管理技士 3名、1級土木施工管理技士3名 2級造園施工管理技士 4名、2級土木施工管理技士1名
(5) 対象外事業所	なし

3. 実施体制



4. 環境経営方針

環境経営方針

環境理念

博多グリーン開発株式会社は、“21世紀の緑を創る”をテーマとして、環境経営システムを構築・運用し、社会・環境と調和した造園工事・土木工事を推進し、全てのステークホルダーに信頼される魅力ある企業をめざします。

この理念に基づき、次の活動指針を展開します。

環境活動指針

1. 事業活動において適用される環境関連法規等を遵守し、効率的で効果的な業務を推進します。
2. EA21活動を従業員全員参加で運用するとともに、事業に係る人々に環境活動の重要性を周知させて意識の向上に努めます。
3. 環境経営システムを構築し、次の事項を重点的なテーマとして取組みます。
 - (1) 省エネルギー活動により、二酸化炭素排出量の削減を行います。
 - (2) 一般廃棄物及び産業廃棄物は、適切に分別・再使用・再生利用・適正処置を行い排出量を削減します。
 - (3) 水の使用量を削減します。
 - (4) グリーン購入を推進します。
 - (5) 化学物質を適正管理します。
 - (6) 受注物件及び日常活動において環境配慮した設計・施工を行います。
 - (7) 必要業務の資格取得を推進し、従業員各人の能力向上をめざします。
4. 以上の環境活動指針に従い、環境経営の継続的改善を実施します。

制定日 2010年 9月 1日

改定日 2022年 4月 1日

博多グリーン開発株式会社

代表取締役 木上正利

5. 環境経営目標

a).2023年度～2025年度(中期3ヶ年)の目標

環境目標	単位	2023年度	2024年度	2025年度	具体的内容
1. 二酸化炭素排出量の削減					
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	24,571	24,546	24,522	2023年度の目標値は2017年度から2022年度までの過去6年間の平均値とし、以降毎年度0.1%ずつ削減する。
1. 電気使用量	kWh	24,817	24,792	24,767	
2. ガソリン使用量	ℓ	3,250	3,247	3,244	
3. 軽油使用量	ℓ	2,799	2,796	2,793	
購入電力の排出係数(九州電力データ)	kg-CO ₂ /kWh	0.392	0.392	0.392	九州電力の2021年度調整後排出係数
2. 燃費の向上					
1. ガソリン	km/ℓ	10.3	10.3	10.3	2023年度の目標値は2017年度から2022年度までの過去6年間の平均値とし、以降毎年度0.01%ずつ増加する。
2. 軽油	km/ℓ	5.5	5.5	5.5	
3. 本社工屋一般廃棄物のうち、【焼却量+最終処分量】の削減					
焼却量+最終処分量	kg	分別管理	分別管理	分別管理	数量を把握しながら、分別を管理する
4. 資源循環の推進(再資源化)					
リサイクル率(剪定枝の堆肥化+樹木・草の焼却場搬入)	%	88.5	88.6	88.7	2023年度の目標値は2017年度から2022年度までの過去6年間の平均値とし、以降毎年度0.1%ずつ増加する。
5. 循環資源の有効活用(再使用+再生使用)					
再生クラッシャーラン使用量	m ³	使用管理	使用管理	使用管理	数量を把握しながら、使用状況を管理する
6. 水使用量の削減					
水使用量	m ³	節水	節水	節水	数量を把握しながら、使用状況を管理する。
7. グリーン購入の推進					
グリーン購入率	%	70以上	70以上	70以上	数量を把握しながら、購入状況を管理する。
8. 化学物質の適正管理					
化学物質の使用量	ℓ	使用管理	使用管理	使用管理	数量を把握しながら、使用状況を管理する。
9. 環境配慮した設計・施工の提案					
提案数	件	提案	提案	提案	積極的に提案し、提案数を把握する。

b) 環境目標とSDGsの関連性

SDGsは、2015年に国連が採択した先進国を含む国際社会全体の2030年に向けた環境・経済・社会についてのあるべき姿(ゴール)を示しており、エコアクション21はそのゴールに向かうための一つの手段と考えています。

下記の表は、エコアクション21の環境目標を達成すれば、SDGs目標に寄与することを示しています。

環境目標	SDGs目	3. すべての人に健康と福祉を	6. 安全な水とトイレを世界中に	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	9. 産業と技術革新の基礎をつくらう	11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任つかう責任	13. 気候変動に具体的な対策を	14. 海の豊かさを守ろう	15. 陸の豊かさを守ろう
1. 二酸化炭素排出量の削減										
1. 電気使用量										
2. ガソリン使用量										
3. 軽油使用量										
2. 燃費の向上										
1. ガソリン										
2. 軽油										
3. 本社社屋一般廃棄物のうち、【焼却量+最終処分量】の削減										
焼却量+最終処分量										
4. 資源循環の推進(再資源化)										
リサイクル率(剪定枝の堆肥化+樹木・草の焼却場搬入)										
5. 循環資源の有効活用(再使用+再生使用)										
再生クラッシャーラン使用量										
6. 水使用量の削減										
水使用量										
7. グリーン購入の推進										
グリーン購入率										

環境目標	SDGs目	3. すべての人に健康と福祉を	6. 安全な水とトイレを世界中に	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	9. 産業と技術革新の基礎をつくらう	11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任つかう責任	13. 気候変動に具体的な対策を	14. 海の豊かさを守ろう	15. 陸の豊かさを守ろう
8. 化学物質の適正管理										
化学物質の使用量										
9. 環境配慮した設計・施工の提案										
提案数										

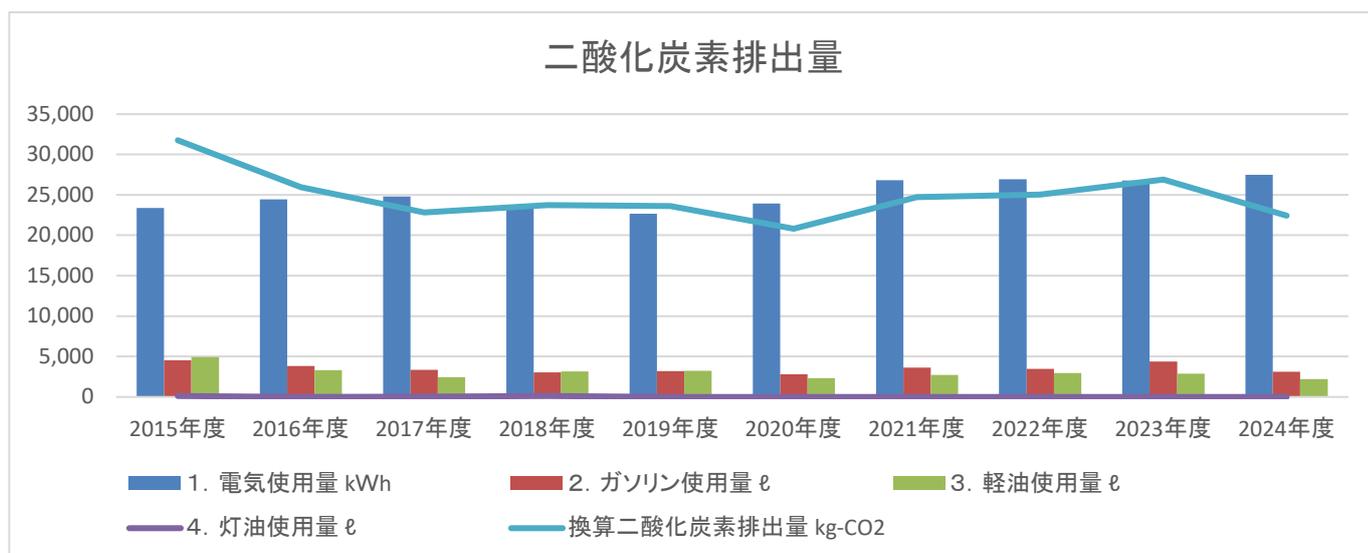
6. 環境経営目標の実績並びに環境経営計画の取組結果並びに評価(今後の取組方向)

a) 環境経営目標設定の根拠(2015年度～2024年度の実績)

1. 二酸化炭素排出量の削減

	単位	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	35,925	31,728	28,675	29,349	28,932	20,820	24,710	25,037	28,087	23,644
購入電力の排出係数 (九州電力データ)	kg-CO ₂ /kWh	0.525	0.584	0.584	0.584	0.584	0.347	0.347	0.347	0.392	0.392
1. 電気使用量	kWh	23,379	24,417	24,788	23,782	22,669	23,940	26,792	26,930	26,774	27,488
2. ガソリン使用量	ℓ	4,531	3,814	3,365	3,046	3,183	2,811	3,623	3,472	4,382	3,099
3. 軽油使用量	ℓ	4,949	3,330	2,448	3,140	3,231	2,315	2,707	2,951	2,869	2,194
4. 灯油使用量	ℓ	134	0	22	108	0	0	0	0	0	0
換算二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	31,766	25,940	22,800	23,714	23,612	20,821	24,710	25,038	26,885	22,408

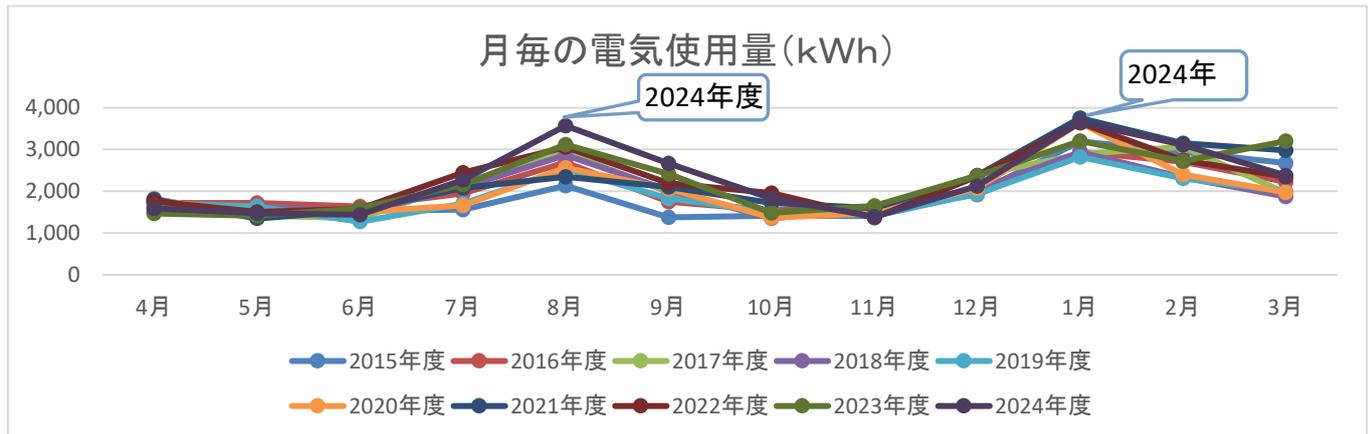
注)上記の換算二酸化炭素排出量とは、排出量の推移をグラフにするため、排出係数を0.347kg-CO₂/kWh(九州電力2018年度調整後排出係数)に統一した数値である。



【まとめ】

- ①電気使用量は、2021年度以降増加傾向にある。本社社屋は事務所兼居宅であり、それぞれに算出するメーターは無い。居宅子女の生育と共に個人使用が増えていると思われる。
- ②ガソリンと軽油使用量は、実作業が多かった年度は増加した。

1-1 電気使用量の分析

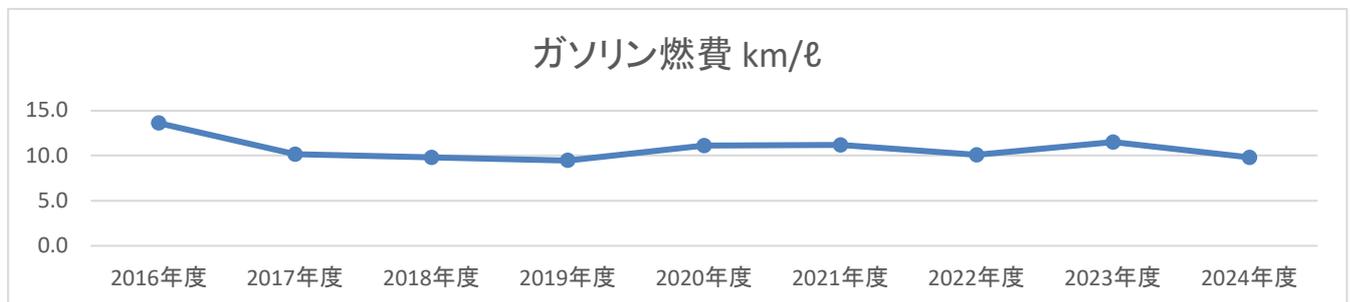


【まとめ】

- ① 電気使用量の多い時期は、8月をピークとする夏と1月をピークとする冬である。冷暖房電気量が外気温の暑さ寒さに影響を受ける。
- ② 1月から3月は、受注工事の年度末にあたり発注者への報告書作成等が多くなり、内業時間も増えることによる電気使用量の増加もある。
- ③ 春・秋は、毎年ほぼ変わらない電気使用量であるが、夏(7月から9月)は年度により1.4倍～1.7倍の開きがある。

1-2 ガソリン使用量の分析

ガソリンを使用している走行車両(乗用車、軽ワゴン車、軽トラック、ダンプトラック)全ての走行距離と燃料を集計し、燃費を算出した。

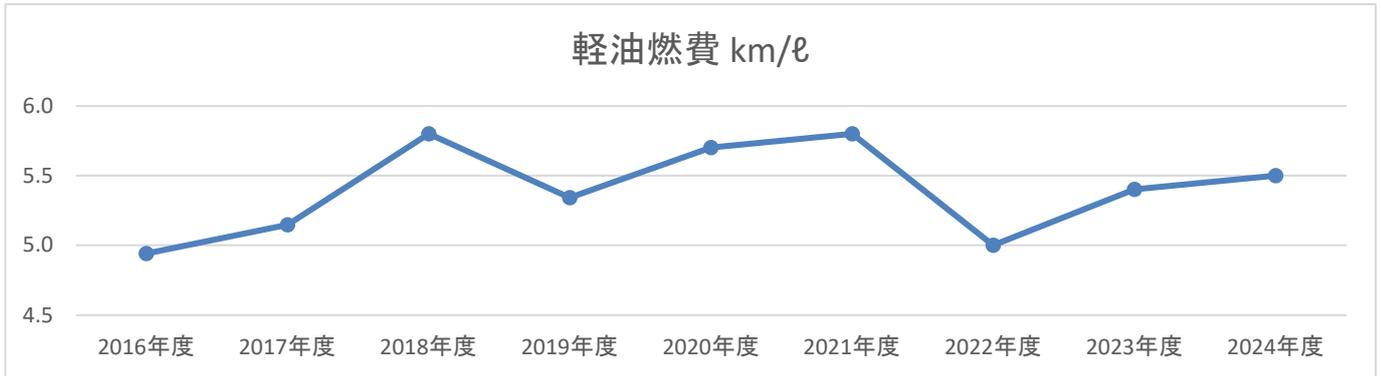


【まとめ】

- ① ガソリン燃費はほぼ一定している。
- ② 乗用車は、社長車として1台使用しており、2016年5月に旧車を廃車とし、2019年5月に再取得した。
- ③ 軽ワゴン車は、経年劣化とともに燃費が悪くなり、2018年6月に廃車した。
- ④ 軽トラックは、現場職員の移動手段と資材運搬用であり2台稼働している。2019年7月及び2022年8月廃車し、それぞれ次の車を購入している。経年劣化が燃費の低下にわずかなりとも影響を与えている。

1-3 軽油使用量の分析

軽油を使用している作業車両(高所作業車、ダンプトラック、ユニック車、パッカー車)全ての走行距離と燃料を集計し、燃費を算出した。

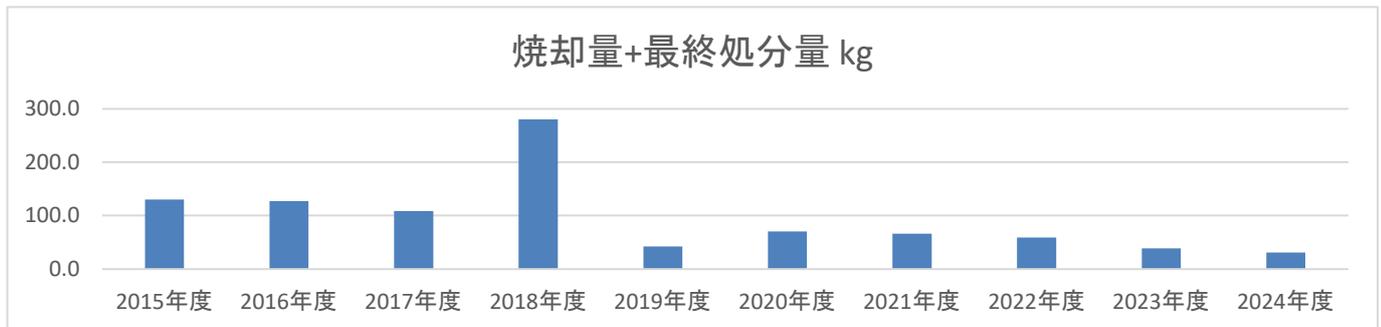


【まとめ】

- ①軽油の燃費は、工事内容で大きく変動する。特に、高木対象の剪定作業が多い場合、作業だけの時間も軽油を消費するので走行距離あたりの燃費は低下する。
- ②パッカー車は、剪定・草刈作業の収集・運搬全てに係わっている。2018年1月に1台廃車とし、2月に新しく購入し、継続して1台保有している。
- ③土木工事関連の作業にはダンプトラックを使用している。2018年12月に1台売却し、1台購入した。
- ③高木対象の剪定作業は、高所作業車を使用する割合が高くなり、それまで稼働していたユニック車の使用頻度が下がった。

2. 本社工屋一般廃棄物のうち、【焼却量+最終処分量】の削減

	単位	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
焼却量+最終処分量	kg	130.0	127.0	108.5	280.0	42.5	70.0	65.9	59.2	38.8	30.6

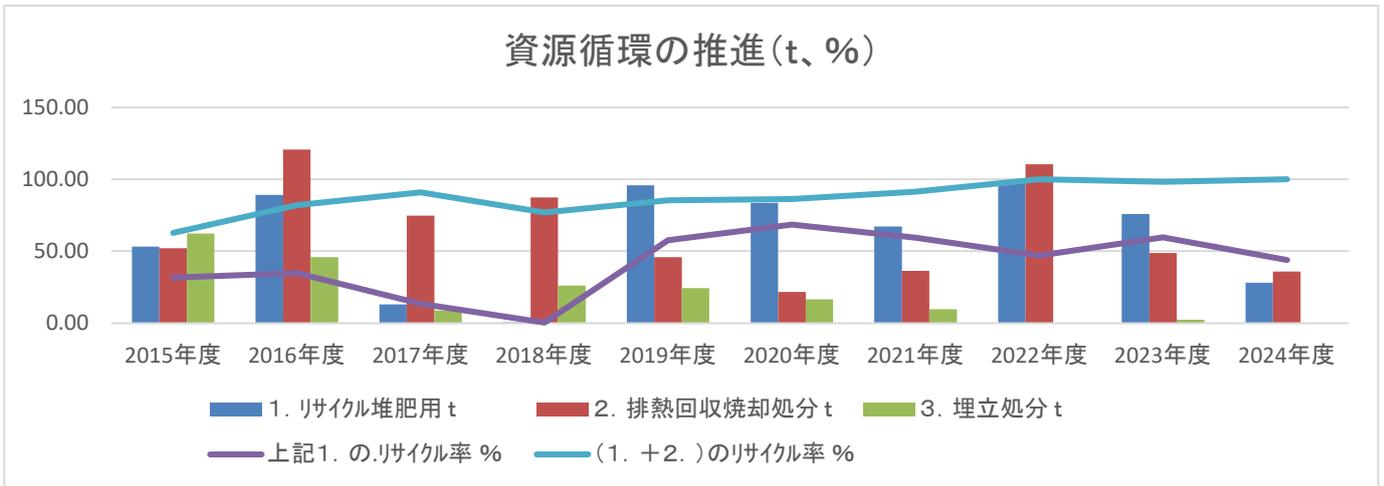


【まとめ】

本社工屋は事務所兼居宅であり、一般廃棄物排出量をそれぞれには分けるのは難しいが、福岡市の条例に従って分別管理を確実にしている。

3. 資源循環の推進(再資源化)

	単位	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1. リサイクル堆肥用	t	53.26	89.10	12.99	0.62	95.78	83.52	67.23	97.73	75.84	28.15
2. 排熱回収焼却処分	t	52.05	120.59	74.60	87.33	45.83	21.65	36.41	110.32	48.72	35.91
3. 埋立処分	t	62.23	45.89	8.81	26.26	24.48	16.7	9.71	0.0	2.41	0.0
上記1. のリサイクル率	%	31.8	34.9	13.5	0.5	57.7	68.5	59.3	47.0	59.7	43.9
(1. +2.)のリサイクル率	%	62.9	82.0	90.9	77.0	85.3	86.3	91.4	100.0	98.1	100.0

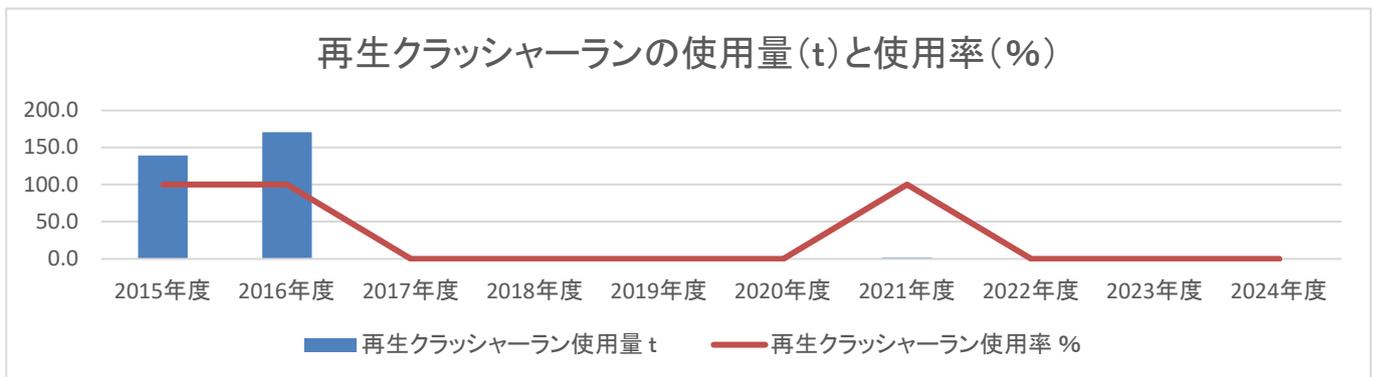


【まとめ】

- ①2018年度までのリサイクル率は、剪定枝を堆肥とする割合としており、2017年中頃から福岡市のリサイクルセンターでの剪定枝の堆肥化が出来なくなり、リサイクル率が急激に低下した。
- ②2019年度以降は焼却処分も排熱回収焼却として、リサイクルに含めることとした。よって、現在は安定的にリサイクル率を管理できている。

4. 循環資源の有効活用(再使用+再生使用)

	単位	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
再生クラッシャーラン使用量	t	139.0	170.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0
再生クラッシャーラン使用率	%	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

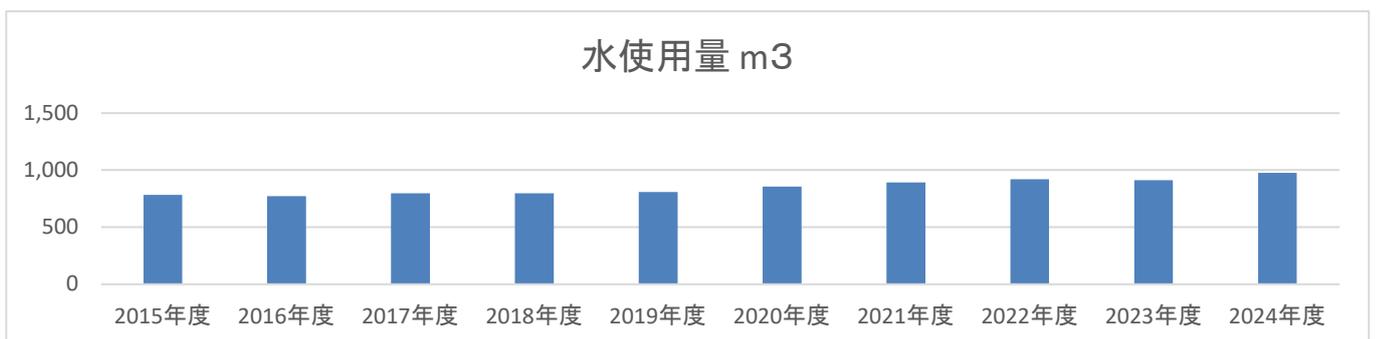


【まとめ】

2017年以降、土木工事を主体とした受注がほとんどない。受注があれば、100%再生クラッシャーランを使用する。

5. 水使用量の削減

	単位	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
水使用量	m ³	782	771	795	795	807	854	891	919	912	974

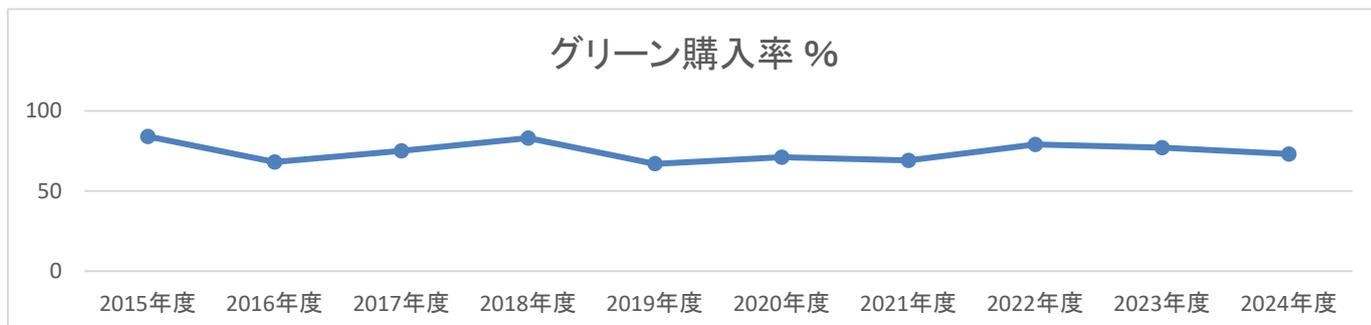


【まとめ】

電気使用量は、2016年度以降増加傾向にある。本社社屋は事務所兼居宅であり、それぞれに算出するメーターは無い。居宅子女の生育と共に個人使用が増えていると思われる。

6. グリーン購入の推進

	単位	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
グリーン購入率	%	84	68	75	83	67	71	69	79	77	73

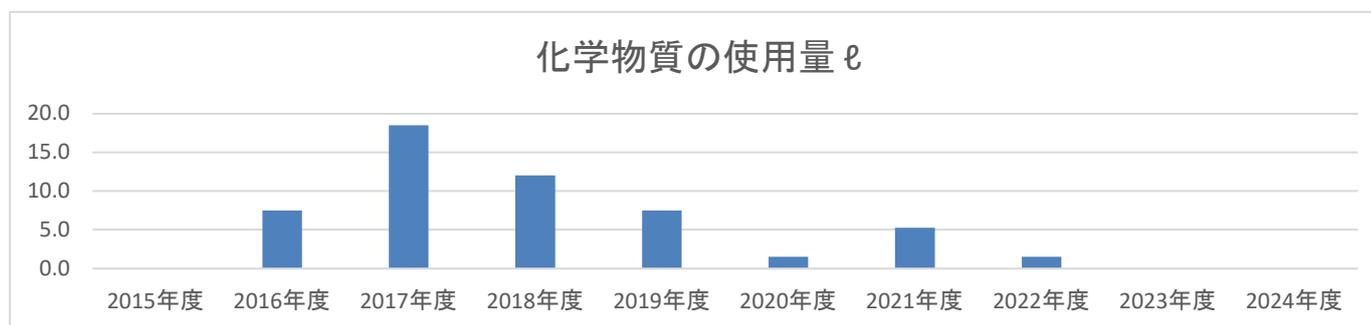


【まとめ】

グリーン購入は、主に事務用品であり金額も少ないが、グリーン製品を優先的に購入するようにしている。

7. 化学物質の適正管理

	単位	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
化学物質の使用量	ℓ	0.0	7.5	18.5	12.0	7.5	1.5	5.25	1.5	0	0

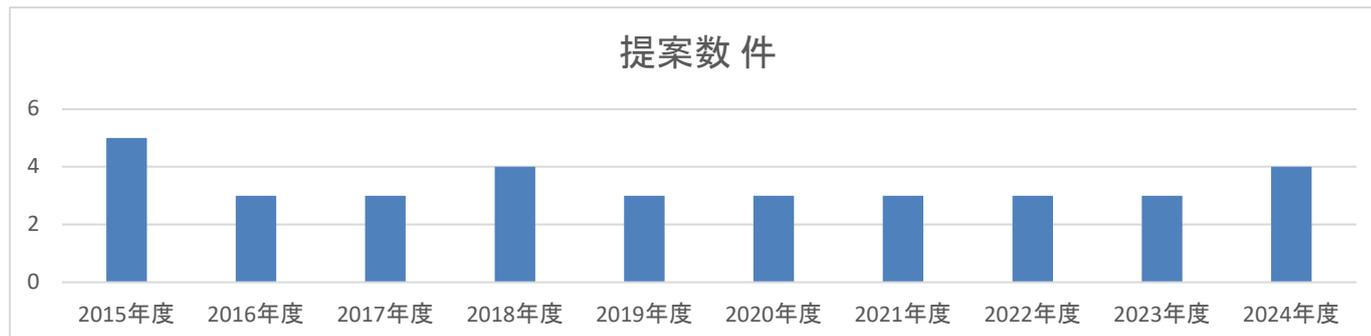


【まとめ】

使用は主に農薬であり、保管記録を作成し、使用管理している。

8. 環境配慮した設計・施工の提案

	単位	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
提案数	件	5	3	3	4	3	3	3	3	3	4



【まとめ】

地域住民に対し緑化活動のポスターを掲示し、工事受注に際し環境ニーズ設計・施工の提案を行っている。

b) 2024年度の実績並びに評価

達成状況の凡例 ○:100%以上達成、△:目標値の90%以上達成、×:目標値の90%未満、-:発生せず

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組対象	目標の 目安	実績	達成 状況	取組計画	実施 状況	評価(今後の取組方向も含む)
二酸化炭素排出量の削減	24,546 kg-CO ₂	23,644 kg-CO ₂	○	下記の電気とガソリン及び軽油に関する記載内容のとおりです。		
電気使用量の削減	24,792 kWh	27,488 kWh	△	・空調の温度を設定(夏季冷房28度程度、冬期暖房20度程度)し、実行する	×	8月・9月及び1月の電気使用量が例年に比較して多かった。本社は事務所兼居宅であり、それぞれに算出するメーターは無い。居宅子女の生育と共に個室で長時間使用が増えていると思われる。2006年度は過去6年間の実績を踏まえ中期3ヶ年計画を策定する。
				・エアコンのフィルターを定期的に清掃する。	○	
				・未使用時の照明を消す。	○	
				・夜間、休日は、パソコンの電源を切る。	○	
ガソリン及び軽油使用量の削減	ガソリン 3,247ℓ	3,100ℓ	○	現場への交通方法は、乗り合いを励行し、必要最小限の車両とする。	○	今年度は、土木工事と造園の管理業務が主体であり、現場も近くなり往復頻度も減った。URの継続工事はあるが、毎年単発の工事が多く、受注予測は困難である。2006年度は過去6年間の実績を踏まえ中期3ヶ年計画を策定する。
				効率的な運転時間及び運転距離が図れる運転ルートを選択する。	○	
	軽油 2,796ℓ	2,193ℓ	○	ガソリン・軽油の給油は、原則として会社が契約しているガソリンスタンドで給油カードを使用する。	○	
				【B6 取組に必要な場合の手順書 D エコドライブ】に従う車の運転を心掛ける。	○	

2. 燃費向上

取組対象	目標の目安	実績	達成状況	取組計画	実施状況	評価(今後の取組方向も含む)
ガソリン及び軽油の燃費向上	ガソリン 10.30 km/ℓ	ガソリン 9.8 km/ℓ	△	発進するときは、穏やかにアクセルを踏んで発進する。	○	当面、全ての社有車に対して、走行距離と燃料消費量を管理してゆく。2006年度は過去6年間の実績を踏まえ中期3ヶ年計画を策定する。 ①ガソリン燃費は、外気の温度に影響される。今年は長期間暑かった。 ②軽油燃費は車種の差はあるが、目標を達成している。
				車間距離にゆとりをもって、交通状況に応じた速度変化の少ない運転を心がける。	○	
	軽油 5.50 km/ℓ	軽油 5.5 km/ℓ	○	減速時は早めにアクセルから足を離し、エンジンブレーキを活用する。	○	
				冷房が必要なときは、車内を冷やし過ぎないようにする。	○	
			無駄なアイドリングはやめる。空ふかしはやめる。駐停車中のエンジンを停止する。	○		

3. 本社社屋一般廃棄物のうち、【焼却量＋最終処分量】の削減

取組対象	目標の目安	実績	達成状況	取組計画	実施状況	評価(今後の取組方向も含む)
1. その他可燃ごみとその他不燃ごみ発生量削減	分別管理	焼却量＋最終処分量 30.6 kg	○	・ごみの分別を徹底し、循環資源を増やす。	○	本社社屋は事務所兼居宅であり、一般廃棄物量を厳格にはそれぞれに分けられないが、福岡市の条例に従って分別排出している。
2. 紙の使用量の抑制		購入量 75.0 kg		ミスコピー用紙はミスコピーボックスに入れ、使用可能なものはメモ・コピーに再利用する。		

4. 資源循環の推進(再資源化)

取組対象	目標の目安	実績	達成状況	取組計画	実施状況	評価(今後の取組方向も含む)
廃棄物のうち循環資源(再使用+再生使用)の割合を増やす。	88.6%	100.0%	○	剪定枝は、工事ごとリサイクル率を設定し、可能な限りリサイクルセンターに搬入し、堆肥化を推進する。	○	今年度は、工事発注者(UR)の意向により、可能な限りリサイクル堆肥施設に持ち込んだ。樹木・草を焼却場に搬入した場合も排熱回収としてリサイクルの対象に含めた。2006年度は過去6年間の実績を踏まえ中期3ヶ年計画を策定する。
				再利用される循環資源量/廃棄物総量を算出する。	○	

5. 循環資源の有効活用(再使用+再生使用)

取組対象	目標の目安	実績	達成状況	取組計画	実施状況	評価(今後の取組方向も含む)
粒調碎石は、循環資源である再生クラッシャーランを100%使用する。	使用管理	0m ³	—	契約図書を確認し、粒調碎石の設計数量を確認する。	—	今年度は、粒調石材を使用する工事がなかった。粒調碎石を含む工事を受注する場合、数量を把握しながら、使用状況を管理する。
				再生クラッシャーランを使用する。	—	

6. 水使用量の削減

取組対象	目標の目安	実績	達成状況	取組計画	実施状況	評価(今後の取組方向も含む)
月ごとの上水道の適正使用とその把握管理	節水	974.0 m ³	○	上水道の請求金額が著しく(目標値の10%以上)UPした場合、蛇口及び水道配管からの水漏れを点検する。	○	2016年度以降増加傾向にある。本社は事務所兼居宅であり、それぞれに算出するメーターは無い。居宅子女の生育と共に個人使用が増えていると思われる。
				蛇口及び水道配管からの水漏れが発生した場合、早急に補修する。	—	

7. グリーン購入の推進

取組対象	目標の目安	実績	達成状況	取組計画	実施状況	評価(今後の取組方向も含む)
事務用品のうち、グリーン製品購入を推進する。	70%以上	73%	○	カタログ等でグリーン製品に該当する基準及びリストを作成する。	○	事務用品は主に通信販売から購入しており、グリーン製品購入率は把握している。過去10年間のグリーン製品購入率は横這い状態にある。今後も70%以上を目標とする。
				グリーン製品を優先的に購入する。	○	
				基準及びリストに基づく調達状況を集計する。	○	

8. 化学物質の適正管理

取組対象	目標の目安	実績	達成状況	取組計画	実施状況	評価(今後の取組方向も含む)
化学物質の使用を管理する。	使用管理	0g	—	化学物質の購入量を把握する。	—	今年度は、樹木への消毒作業が発生しなかった。農薬を使用する場合、帳票「化学物質(農薬)の保管・管理」で数量を把握しながら使用状況を管理する。
				化学物質の使用量及び廃棄処分量を把握する。	—	
				化学物質の保管(購入量一使用量一廃棄処分量)の記録を作成し、管理する。	—	

9. 環境配慮した設計・施工の提案

取組対象	目標の目安	実績	達成状況	取組計画	実施状況	評価(今後の取組方向も含む)
環境配慮した設計・施工を提案する。	提案	4件	○	工事受注に際し、環境配慮した設計・施工を提案する。	○	UR工事の受注条件として環境配慮した設計・施工を提案した。
				日常活動において、環境配慮した設計・施工(例1:緑被率の高い造園計画を提案し、マルチング及び肥料はリサイクル製品を使用する。例2:他工事からの撤去した資材(樹木、フラワーポット、砂、真砂土)を再利用する。例3:再利用可能な資材(ベンチ、縁台、遊具、車止め)を再利用する。)を提案する。	○	UR工事において、住民の掲示板に「緑のお便り」を年3回掲示し、樹木や花卉への関心を高める努力をした。施工期間中は継続して「緑のお便り」を発行する。今後も積極的に提案し、提案数を把握する。

c) 次年度の環境経営目標と環境経営計画

環境経営目標は、“5. 環境経営目標”(4頁)として記載したとおりである。環境経営計画は、目標を達成する取組と手段を以下に記載する。

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標	達成手段
電気使用量の削減	・空調の温度を設定(夏季冷房28度程度、冬期暖房20度程度)し、実行する
	・エアコンのフィルターを定期的に清掃する。
	・未使用時の照明を消す。
	・夜間、休日は、パソコンの電源を切る。
ガソリン及び軽油使用量の削減	現場への交通方法は、乗り合いを励行し、必要最小限の車両とする。
	効率的な運転時間及び運転距離が図れる運転ルートを選択する。
	ガソリン・軽油の給油は、原則として会社が契約しているガソリンスタンドで給油カードを使用する。
	【B6 取組に必要な場合の手順書 D エコドライブ】に従う車の運転を心掛ける。

2. 燃費向上

取組目標	達成手段
ガソリン及び軽油の燃費向上	発進するときは、穏やかにアクセルを踏んで発進する。
	車間距離にゆとりをもって、交通状況に応じた速度変化の少ない運転を心がける。
	減速時は早めにアクセルから足を離し、エンジブレーキを活用する。
	冷房が必要なときは、車内を冷やし過ぎないようにする。
	無駄なアイドリングはやめる。空ふかしはやめる。駐停車中のエンジンを停止する。

3. 本社社屋一般廃棄物のうち、【焼却量＋最終処分量】の削減

取組目標	達成手段
1. その他可燃ごみとその他不燃ごみ発生量削減	ごみの分別を徹底し、循環資源を増やす。
2. 紙の使用量の抑制	ミスコピー用紙はミスコピーボックスに入れ、使用可能なものはメモ・コピーに再利用する。

4. 資源循環の推進(再資源化)

取組目標	達成手段
廃棄物のうち循環資源(再利用+再生使用)の割合を増やす。	剪定枝は、工事ごとにリサイクル率を設定し、可能な限りリサイクルセンターに搬入し、堆肥化を推進する。
	再利用される循環資源量/廃棄物総量を算出する。

5. 循環資源の有効活用(再使用+再生使用)

取組目標	達成手段
粒調砕石は、循環資源である再生クラッシャーランを100%使用する。	契約図書を確認し、粒調砕石の設計数量を確認する。
	再生クラッシャーランを使用する。

6. 水使用量の削減

取組目標	達成手段
月ごとの上水道の適正使用とその把握管理	上水道の請求金額が著しく(目標値の10%以上)UPした場合、蛇口及び水道配管からの水漏れを点検する。
	蛇口及び水道配管からの水漏れが発生した場合、早急に補修する。

7. グリーン購入の推進

取組目標	達成手段
事務用品のうち、グリーン製品購入を推進する。	カタログ等でグリーン製品に該当する基準及びリストを作成する。
	グリーン製品を優先的に購入する。
	基準及びリストに基づく調達状況を集計する。

8. 化学物質の適正管理

取組目標	達成手段
化学物質の使用を管理する。	化学物質の購入量を把握する。
	化学物質の使用量及び廃棄処分量を把握する。
	化学物質の保管(購入量-使用量-廃棄処分量)の記録を作成し、管理する。

9. 環境配慮した設計・施工の提案

取組目標	達成手段
環境配慮した設計・施工を提案する。	工事受注に際し、環境配慮した設計・施工を提案する。
	日常活動において、環境配慮した設計・施工(例1:緑被率の高い造園計画を提案し、マルチング及び肥料はリサイクル製品を使用する。例2:他工事からの撤去した資材(樹木、フラワーポット、砂、真砂土)を再利用する。例3:再利用可能な資材(ベンチ、縁台、遊具、車止め)を再利用する。)を提案する。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業活動において法的義務を受ける主な環境関連法規は次のとおりです。

適用される法規制等	適用される事項(施設・物質・活動等)
a) 廃棄物処理法	<p>【目的】 廃棄物の抑制、適正な処理、生活環境の清潔、公衆衛生の向上等を目指す。</p>
	<p>A) 一般廃棄物に該当するものは、次のとおりです。</p>
	<p>1) 事務所で発生する紙類、新聞紙、ダンボール、ビン、缶、ペットボトル、その他可燃ごみ・・・福岡市の基準により分別し、指定日に収集処分。</p>
	<p>2) 事務所で発生する割れたプリンター・鉢及びその使用土、スプレー缶、電池、電球その他不燃ごみ・・・福岡市の基準により分別し、指定日に収集処分。</p>
	<p>3) 剪定作業に伴い発生する枝葉・・・堆肥として再利用されるものは、民間のリサイクルセンターに持ち込み、処分委託。</p>
	<p>4) 大木、土のついた樹木の根、その他焼却出来ない樹木(夾竹桃、松、槇、杉)・・・民間業者に持ち込み、埋立処置委託。今年度は発生していない。</p>
	<p>5) 上記3)、4)以外の剪定・除草作業に伴い発生する樹木・枝葉・草・・・公共の焼却処分場に持ち込み、処分委託。</p>
	<p>6) 側溝清掃作業に伴い発生する埋立可能な土砂(廃棄物処理法2条2項に基づき、民間業者に持ち込み、埋立処置委託。)・・・今年度は発生していない。</p>
	<p>B) 産業廃棄物に該当するものは、次のとおりです。</p>
	<p>1) 構造物撤去に伴い発生するコンクリート殻、アスファルト殻・・・民間のリサイクルセンターに持ち込み、処分委託。</p>
<p>2) 構造物撤去に伴い発生する木くず・・・民間のリサイクルセンターに持ち込み、処分委託。</p>	
<p>3) 構造物撤去に伴い廃プラスチック類・・・民間業者に持ち込み、埋立処置委託。</p>	
<p>4) 構造物撤去に伴い発生する金属くず・・・民間のリサイクルセンターに持ち込み、有価で売却する。</p>	
<p>5) 排水柵と排水柵の間の排水管に詰まった木の根と土砂(高圧洗浄車とバキューム車で加圧水排除する方法。含水比が高い為、産業廃棄物処理法2条4項の汚泥としてマニフェストを作成し、処理業者に委託。業者は天日干しにて脱水後、再生土砂として使用。)・・・今年度は発生していない。</p>	

適用される法規制等		適用される事項(施設・物質・活動等)
b)建設リサイクル法	【目的】	建設工事に伴って発生する建設廃棄物を再資源化し、再利用する。
	【当社の取組】	該当する建設リサイクル法の対象は請負金額500万円以上であり、当社は今年度該当する工事を受注していない。
c)オフロード法	【目的】	公道を走行しないオフロード特殊自動車に対し排ガス規制する。
	【当社の取組】	コンクリート解体時、排ガス規制のオフロード特殊自動車(バックホウ)を使用する。今年度該当する工事は受注していない。
d)自動車リサイクル法	【目的】	車のリサイクル率を上げ、カーエアコン・エアバックの回収費用を車の所有者に義務付ける。
	【当社の取組】	今年度は該当する廃車手続きはなかった。
e)フロン排出抑制法	【目的】	地球温暖化防止を目的として、フロン類の漏洩可能性のある機器を適切に管理する。
	【当社の取組】	定格出力1.1kwのエアコンを年4回定期的に簡易点検している。

以上、2025年4月1日に上記の環境関連法規の遵守状況を確認・評価した結果、違反はありませんでした。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

2010年10月1日に運用を開始し、14年6ヶ月が経過しました。

この間、目標値の未達成もありましたが、下記のとおり環境経営目標及び環境経営計画の是正・改善を行いました。

①電気使用量は、年度により大きく差があり、目標値をクリア出来ない年度がある。外気温の暑さ寒さに対応した冷暖房使用時間と温度設定及び内業時間が多いと電気使用量も増えると考えます。

及び、二酸化炭素排出量でいえば、2011年度の東北大震災の影響により原子力発電の中断等で二酸化炭素排出係数が2017年度まで増加し、原子力発電の再稼働により2018年度から低下しています。

②街路樹剪定工事受注に併せ、2014年パッカー車と2015年高所作業車を購入しました。よって、ガソリン及び軽油の使用量が増えています。

2016年4月から車ごとのガソリン及び軽油の使用量を調査しています。現時点の分析結果では、受注内容(土木工事or造園工事)と工事内容(施工管理or下請工事及び現場への往復距離)及び工事量がガソリン及び軽油使用量に影響しているといえます。

パッカー車及び高所作業車の使用は、経営面から判断すると、作業能率の向上と作業時間の短縮それに伴う交通誘導員の削減とメリットも多くあるのですが、二酸化炭素排出量ではデメリットもありません。

③パッカー車を使用すると、1回あたりの樹木及び草の収集・運搬が従前と比べ大容量となり、再利用分と排熱回収焼却分を混載した場合全てを排熱回収焼却処分せざるを得ません。

2018年度から福岡市のリサイクルセンターでは、堆肥への再生が不可能となりました。その後は、剪定枝の再生を要求される場合に限り、民間のリサイクルセンターに持ち込みました。よって、剪定枝の堆肥化は大幅にダウンしました。2020年度から焼却処分もリサイクル率に含めることとしました。熱エネルギーとしてリサイクルされると考えます。

④本社社屋は事務所兼居宅であり、一般廃棄物及び水使用量を厳格にはそれぞれに分けられません。数量の把握は継続しますが、2020年度以降は目標値を設定せず、状況管理します。

⑤グリーン購入の推進は、現状維持のグリーン購入率70%を目標値として購入状況を管理します。

⑥環境配慮した設計・施工の提案に関し、当社はUR団地の植物管理工事で年3～4回の季報「緑のお便り」を発行し、居住の皆様への作業協力のお願いや樹木紹介をしています。

環境経営方針は、2022年度課題とチャンス为重点的なテーマに加え、継続的改善を誓約しました。

従業員の実施体制は従来通りですが、工事担当者の人材確保が困難な時勢になりつつあります。

社会・環境に調和した造園工事・土木工事に取り組んでいる当社にとって、環境マネジメントシステムは、大変有意義なことと思っています。

全てのステークホルダーに信頼され魅力ある企業となるため、今後とも法令の趣旨を理解し、コンプライアンスを遵守してまいります。

従業員各人は、設定した環境経営目標を手順に従って運用することに日々研鑽してゆきます。

2025年5月20日

代表取締役社長 木上正利